

第20期 第7回町田市立図書館協議会配布資料一覧

- 【資料0】 第20期第7回町田市立図書館協議会次第
- 【資料1】 【コメント案入り】 2023年度事業実績報告シート
- 【資料2】 若者の図書館利用の促進事業について（グループディスカッション）
- 【資料3】 図書館からの報告事項
- 【資料4】 修正_鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について
- 【資料5】 図書館情報システムの更改に伴う町田市立図書館の休館等について

第20期 第7回町田市立図書館協議会次第

■日 時：2024年9月27日（金） 14：00～16：00

■場 所：町田市立中央図書館 6階中集会室

■次 第：

- 1 図書館評価について【資料1】
- 2 若者の利用促進について【資料2】
3. 図書館からの報告事項【資料3～5】
4. その他

■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】		図書館			
事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書等を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定		第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）	
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数		3,966冊	6,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況等の検証
年度目標（指標①）	第四次計画の策定完了	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認
年度目標（指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

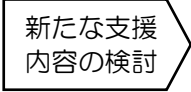
＜2023年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度に策定した「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の事業を推進するため、2023年度は7月と1月の計2回、町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催し、結果を図書館ホームページに掲載しました。 2025年度からの「第五次町田市子ども読書活動推進計画」の策定に向けて、検討スケジュールや進捗状況等を会議に諮りました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> 外国語児童書の充実に向けてふるさと納税を活用したことにより外国語の絵本・児童書の蔵書数が約8,000冊となり、目標値を大きく上回りました。 英語図書の活用や英語多読の周知のため、英語多読講演会を2回開催した他に、保護者向け（親子で参加）英語絵本の読み聞かせ講演会を開催しました。親子11組の参加がありました。講座では、電子書籍「Read Along」や多読コーナーのPRを行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度中に第五次町田市子ども読書活動推進計画を策定する必要があります。また今後は、国の計画において求められている、デジタル社会への対応や子どもの視点（同世代の若者で行う取組や子ども・若者の意見の取入れなど）、多様な子どもたちの読書機会の確保が重要となります。 英語絵本の貸出が進むように、PRの検討が必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度中の第五次町田市子ども読書活動推進計画の策定に向けて、国の計画において求められている点を踏まえながら、町田市子ども読書活動推進計画推進会議に諮っていきます。 英語絵本の貸出が進むように、PRを行います。

<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定、②外国語の絵本・児童書の蔵書数どちらも目標を達成しており、また、②に関しては目標値を大きく上回っていて、良いなと思いました。・②の主な取組である英語多読講演会は、全体的に満足度の高い公演内容となることが分かり、また、多読本の大事なPRの場となっているため、プログラムの内容を状況に合わせて検討しながら、これからもぜひ続けていってほしいと思います。 <p>・「第四次町田市子ども読書活動推進計画」による事業の実施の目標に達したことは評価できます。町田の子どもに「読書の楽しさ」が広がっていることを願います。</p> <ul style="list-style-type: none">・「えいごのまちだ」の周知のために、各種の催しを行っていることは評価できますが、「子どもと一緒に英語絵本を読もう」の実施報告にあるように、開催にあたっては、更なる緻密な業務計画が必要かと思えます。 <p>【関連事項等提言】</p> <ul style="list-style-type: none">・課題にも書かれていましたが、②の英語多読講演会の開催によって、多読本の周知は広がっていますが、手に取るだけでなく実際に本の貸出につながるようなPRをする必要があるかと思えます。・第五次では、目標値の低さが気になりますが、現状を鑑みた議論による結論でしょうから、目標に向けてたゆまぬ努力を望みます。・ふるさと納税で購入した英語絵本がもっと利用されるよう、さらなる魅力の発信が必要かと思えます。・外国語資料の貸出数の推移の資料があるとよいと思います。・絵本・児童書・書籍・資料などの計画的購入と提供は読書活動の中核となります。計画以上に目標を達成した事は明らかだと思いますが、英語外の書籍つまり他言語による情報の提供や共有等も今後の課題だと考えます。・DX対応について積極的に推進されていることが明らかですが、今後AIの発展に伴い、会話型AIであるChat GPTのより積極的な活用などが強く求められると思います。その面で施設としてのWi-Fiの強化等が必須です。・子ども読書活動推進計画において、様々な障害のある子供たち(市民も含めて)のバリアフリーの推進と対応を一層図ることが必要です。
------------------------	---

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
-----------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①学校図書館支援貸出利用校数		35校	42校	
	②学校図書館支援貸出数		3,768冊	4,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
					
年度目標 (指標①)	35校	37校	39校	40校	42校
年度目標 (指標②)	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

＜2023年度の事業実績＞

達成状況 (指標①)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援貸出は23校に実施しました。 ・学校図書館支援貸出が利用しやすいように、「テーマ別貸出セット」として、「じどうしゃくらべ」や「伝統工芸」などのテーマで追加購入しました。 ・新たな学校図書館への支援方法として、電子書籍の利用IDを付与しました。これにより、市内のすべての公立小学校と中学校が電子書籍サービスを利用することが可能となりました。
達成状況 (指標②)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館支援貸出の冊数は、2,188冊でした。 ・学校図書館への新たな支援方法として、2023年9月に市内すべての公立小・中学校の児童・生徒へ電子書籍サービスの利用ID付与を行いました。児童・生徒のIDから65,514点の貸出がありました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館と連携をしながら、学校図書館支援貸出の利用について改善を進めていく必要があります。 ・学校図書館において、電子書籍サービスなど学校図書館支援貸出以外のサービスについても利用しやすいように検討する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校図書館支援貸出や学校図書指導員への研修協力などを通して学校図書館の連携を進めていきます。 ・電子書籍サービスについて、学校からの意見を反映できるように取り組んでいきます。

<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】 活動指標① ・学校図書館支援貸出が23校と、昨年ベースから3校減少という結果になりました。目標値として掲げている42校の約半数となっており、より積極的な周知活動を通して貸出校数を増加させていく必要があると考えます。テーマ別貸出セットは活用の際とても選びやすく良策だと思いますので、電子版等も含めラインナップの整備を進め、周知していくとよいと思います。 ・学校図書館への新たな支援方法として全児童・生徒への電子書籍サービスの利用IDを付与したことはとても良かったと思います。その結果、65,514点の貸し出しがあったことは今後の電子書籍の学習利用の可能性が大いに広がったことを意味します。著作権や許諾の課題は多々あると思いますが、電子書籍の冊数をあらゆるジャンルで増えていくことを学校現場として期待します。</p> <p>活動指標② ・学校図書館への支援貸出冊数は前年度比700冊弱減となりました。電子書籍の貸出冊数が伸びた反動もあると考えますが、紙媒体としてのメリットを学校現場に落とし込めていない現状が見られます。各校に配置されている図書指導員への研修や周知活動を通して、あるいは学校に直接出向いて出前授業や紙媒体に触れる機会を増やすようなイベント等を企画し実施していくようなことも検討していく必要があると感じます。年度目標冊数の設定も、今後益々台頭してくる電子書籍版と合わせた貸し出し目標にしていくなど、柔軟に考えていく必要もあるかと思ひます。 ・電子書籍サービスの学校活用については確実に増えてきているので、今後も引き続き電子書籍数を増やし、学習活動での利活用に十分耐えうる書籍の質と量の確保をお願いしたいと考えます。</p>
------------------------	--

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。				
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①連携して行うPR活動件数		4件	10件	
	②SNS発信数		219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施	
	SNSを利用した情報発信				
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件	10件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回	800回

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> 自由民権資料館で講座・講演会事業を市内各施設で22件実施したほか、生涯学習センター、文学館では庁内他部署や近隣大学・学校、民間団体との連携事業をそれぞれ35件、16件の合計73件実施し、施設の相互PRに務めました。 図書館では、移動図書館車が芹ヶ谷公園のイベントや保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	<p>X（旧：Twitter）による情報発信を自由民権資料館で124回、図書館で81回、文学館で821回、生涯学習センターで59回実施したほか、文学館ではInstagramによる情報発信も110回実施し、合計1,195回のSNSによる情報発信を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館では、Twitterのフォロワー数が毎年増加しており、2023年度には2022年度から88人増加し、1,564人になりました。 図書館主催事業の「ひとことPOPコンテスト」の中で、市内5ヶ所の書店にてご協力いただいた「シール投票」について、X（旧：Twitter）にて周知を行いました。複数の書店のSNSでも周知していただきました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い利用者層を開拓するため、施設の実施する講座の内容や実施方法を検討する必要があります。 それぞれのメディアの特徴を理解し、効果的な活用方法を研究する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 施設を知ってもらうため、アウトリーチ事業の充実や動画などのデジタルコンテンツの作成に取り組みます。 ホームページやX（旧：Twitter）などのSNSで情報発信を積極的に行うとともに、SNSとHPの連動やX（旧：Twitter）以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。 施設への関心をつなぎとめられるよう、継続的に提供している情報の充実を図ります。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

・①連携して行うPR活動件数、②SNS発信数どちらも計画以上に目標を達成しており、良いなと思います。
・特に②に関しては、合計1000回以上のSNS情報発信を行っており、力を入れて取り組んでいたことが伺えます。フォロワー数も88人ではありますが増加しており、情報発信をしたことによる成果が出たのだと思います。一番はそれを受けて利用者がさらに増えていくことが理想ですが、まずはSNSを閲覧してもらうことが大切だと思いますので、これからも積極的に情報発信を行ってほしいと思います。

・今やSNSによる情報発信は通常業務であり、40万市民に対し、1500余りのフォロワーをどう増やしていくか工夫が求められるところです。
・市内の書店との連携は高く評価できます。

【関連事項提言等】

・②に関してですが、課題にもあったように、メディアの特徴に合わせた情報発信をしていく必要があると思います。X（旧Twitter）とInstagramの違いは何であり、どついった風に図書館の情報を載せて発信していくのか、HPとX（旧Twitter）で同じような文章が並ぶ内容の情報を載せるのか、HPに誘導できるような内容にするのか、もっとたくさんの人に見てもらえるようなSNSにしてほしいです。

・今後も民間の力を借りる情報発信をもっと提案、実践していただきたいです。

・利用促進は概ね進みつつあると考えますが、中年以上はFacebookですが若者たちは今やTwitterやInstagramなどを使っているため、その方向も考える必要があります。またLINEはネットワークを構成することができるので、可能な限り積極的な活用を図ることが必要だと思われます。

・生涯学習施設の活動については、様々な人のネットワークの中で使われることが大切ですので、紙のリーフレット、ホームページPDFでの提供、SNSなどによる発信の機能を高めることが必要だと考えます。

・ターゲットを定めて、高等学校や小中学校、幼稚園・保育園等への積極的なPRが必要です。子供たちの後には保護者がいるので、その保護者への周知も図ることができると考えます。

■取組2-6 読書普及事業の充実

図書館

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っているとされています。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図書館に足を運ぶきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化します。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラリー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	3事業実施		4事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の11事業を実施しました。 ①「としょかん1ねんせい」では、図書館に登録・更新した558名へミニプレゼントを渡しました。②5、6歳から小学校低学年を対象とした「読書手帳」を配布しました。③中央図書館で実施している中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は230組563名の利用がありました。④「小学生向け講座～ちよっぴり図書館員になってみよう!」を実施し、10名の参加がありました。⑤YA世代*を対象に、一日図書館員を実施し、4日間で16名の参加がありました。⑥Yシネマ（10代向け映画会）を実施し、10代の参加は2名（総観客数は41名）でした。⑦中高生向け回遊型謎解きイベント「まちクエ2023*」を8月に実施し、50名の参加がありました。⑧MSP（町田創造プロジェクト）とのコラボイベント「飛んで火にいる夏のボドゲ in中央図書館」を行い、13名の参加がありました。また、引続き若者参画を進めるため、若者の図書館ボランティアとして「図書館プランナー」の募集をし、14名が登録しました。⑨「ひとことPOPコンテスト2023」を実施しました。書店・地域文庫に周知や投票の協力をお願いし、新たに書店2店舗の協力を得られ計5店舗に協力していただきました。応募総数は324名となり、最優秀賞1名、優秀賞1名、図書館協議会賞1名、図書館長特別賞1名が選ばれました。入賞作品はしおりにして市内各所に配布しました。⑩保護者向け（親子で参加）英語絵本の読み聞かせ講演会を開催し、親子11組の参加がありました。講座では、電子書籍「Read Along」や多読コーナーのPRを行いました。⑪文学館では、小学生から高校生までを対象に「ことばらんどショートショートコンクール」を開催し、1002点の応募がありました。
課題	・「図書館プランナー」を中心に、中高生世代が読書や図書館に興味を持ってもらえるようなイベント等を検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	・読書や図書館に興味を持つきっかけになるよう、若者の参画を支援・推進していきます。 ・各事業の内容を見直しながら、継続した取り組みを実施します。

*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。

*まちクエ2023：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- ・昨年度に引き続き11事業を実施するなど、図書室や図書館に足を運ばせる工夫を凝らす姿勢は高く評価できます。また、乳幼児から青少年世代に渡って幅広く事業を展開されているのも評価できます。
- ・「ことばらんどショートショートコンクール」はついに応募点数が1000点を超え、すっかり定着した感があります。今後も「ひとことPOPコンテスト」などと併せて、学校等に案内を継続して行ってほしいです。
- ・小中学校における読書普及は、魅力ある蔵書と図書館環境の充実にあると考えます。図書指導員の専門性向上やWi-Fi環境の整備など、教育委員会と連携して充実を図っていくべき点が多いと考えます。
- ・若い世代へ向けた取組について、年代別に様々な個性的プログラムを用意して実施出来たことは評価できます。特に「としょかん1ねんせい」の取組は、図書館を知って好きになってもらえる効果的な企画と感じました。若い世代のアイデアを引き出し、読書普及を促進する仕掛けが少しずつ定着してきたと思います。
- ・「としょかん1ねんせい」の登録・更新が75名増えたことは、就学前から図書館への関心が高まるような「読書手帳の配布」等の取り組みや、ミニプレゼント等の効果もあるでしょうが、実際利用して楽しかったと感じたからこそであり、今までの取り組みが功を奏した結果と評価できます。
- ・「わいわいキャレル」と「Yシネマ」は利用者数が減っていますが、その他の取り組みは定員がすぐ埋まる、また参加者の大幅増となりました。昨年課題としていた「利用者、特に若者世代の意見を取り入れる」ことに取り組んだ成果と言えます。また、MPSコラボイベントの際に、「図書館プランナー」を募集したことも高く評価できます。新たに加わった14名とともに、今後もイベントだけでなく、日常的に利用したくなる場所作り、PR方法についても、検討されることを期待します。
- ・「ひとことPOPコンテスト」は前年度の3.6倍の応募数がありました。新たに2書店が加わるなど、官民連携して読書普及に向けての取り組みがなされていること高く評価し、更なる普及事業の促進を期待します。
- ・「ことばらんどショートショートコンクール」の前年度より115点増の応募があるなど、23年度の取り組みの多くで参加者が増えたこと高く評価できます。内容、PR方法の効果なのか等を検証し、更なるブラッシュアップを期待します。

【関連事項提言等】

- ・デジタルデバイスの使用が当たり前の若い世代へ向けて、紙の媒体である本の良さを実感してもらえるような取組を打ち出して欲しいです。
- ・学校に行かない選択をしていることもたちにも情報が届くよう、居場所機能のある活動団体との連携も視野に入れた検討を期待します。また、Dボックスのように特集展示等を行い、日中学校がやっている時間帯でも当該こともたちが利用しやすい環境づくりを期待します。

■取組2-7 シニア世代向け事業の充実

図書館

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	シニア世代を対象とした事業数		未実施	2事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<p>以下の5事業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちだ探・探ゼミナールにおいて、「図書館活用講座」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。 ・中央、鶴川駅前、金森、木曾山崎、堺、忠生の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。 ・堺図書館で大人のためのおはなし会を実施しました。 ・デジタルデバイド解消事業として、はじめてのスマホ体験（8月、10月、12月）を実施し、49名の参加がありました。 ・スマートフォン・タブレット個別相談会（8月～3月）を実施し、134名の参加がありました。2022年度のスマートフォン・タブレット個別相談会は、利用率が全体で52%に留まっていたが、実際に相談会場にお越しいただいた方への次回以降の日程のご案内等、情報発信方法を変更した結果、67%に向上しました。
課題	・シニア世代向けの効果的な情報提供方法や事業内容を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・特集展示やイベントについて、継続して事業を実施します。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

・様々な取組にチャレンジしてシニア向け事業を充実させようとしている姿勢は高く評価できます。一方、チューターや生涯学習センター職員及び講師の数が受講生数を大きく上回った図書館活用講座など、需要や効率の点で再考が求められる事業もあります。スマートフォン・タブレット個別相談会は前年度比30名増と人気でした。来館するきっかけがあると、図書の利活用増にもつながることが考えられます。講座の最後には新刊本情報などのページを閲覧させるような構成にするなどの工夫もされるとよいと思います。

・「図書館活用講座」の開催を生涯学習センターとの共催にしたことは価値があることと思います。他機関との連携の動きは、情報共有の観点からも必要不可欠なことと考えられます。認知症予防というテーマは、今後増々重要な課題になってくると考えられるもので、取組の軸にしたのは的を得ていると思います。スマホ・タブレット個別相談会は前年より利用率が高まったことは告知方法の改善が図られている証拠で評価します。

・「まちだ探・探ゼミナール」の「図書館活用講座」は、満足度も高く、図書館に向くだけでなく、高齢者が外に出て社会とつながるきっかけともなる良い取り組みです。職員間で課題と参加者のニーズの把握もなされているようなので、今後にぜひ活かしてください。

・特集展示により、関連本の貸し出しも増えているなど、効果が上がっていること評価できます。今後も、ライフステージに応じた情報提供や講座の開催等の準備を期待しています。

・堺図書館でのおはなし会では、シニア世代から直接ニーズを聞けたり、職場体験の中学生との交流があるなど、良い企画です。各館で行うなど地域のシニア層の図書館利用促進に繋がる事業の開催も必要と思われるので、今後に期待します。

・高齢者のデジタルデバイドは、災害・非常事態の情報伝達が届かない、コミュニケーション不全による孤立など様々な問題が生じる懸念から、喫緊の課題です。その中で、図書館、生涯学習センター共に講習会やスマートフォン・タブレット個別相談会を開催し、ニーズも高く、丁寧に対応されていて、参加者も増えていることは高く評価できます。しかし、中央図書館だけの開催が残念です。長距離の移動が難しい方のために、各館での開催もぜひ検討することが必要です。と同時に、スマホ自体に苦手意識を持つ方へ向けて、必要性を周知する事業も検討してください。

【関連提言事項】

・認知症予防の取組に関しては、専門家の意見や認知症サポーターの活用を検討して、講座の充実を図って欲しいです。シニア世代こそ、デジタルデバイスに慣れれば生活の質の向上につながると思います。図書館という身近な場所でのデジタルデバイス解消事業に力を入れて欲しいです。

・24年度は、図書館での個別相談会の実施予定はないとのことですが、アンケートからも満足度が高くニーズがある事業だと思われます。生涯学習センターを紹介するのではなく、25年度はぜひ図書館で再開することを期待します。

・シニアに直結する話題だけでなく、現代に社会情勢の理解など情報格差を補うような企画も検討してください。

取組2-8 障がい者サービスの充実	図書館
--------------------------	-----

事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デイジー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数			1事業	3事業
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

*マルチメディアDAISY（デイジー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<p>以下の3事業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディアDAISY上映会を行い、26名の参加がありました。図書館が所蔵する多様な資料のPRを行いました。若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できることを案内しました。マルチメディアDAISY資料は8点増えて合計55点になり、読書が困難な人が楽しめる資料が充実しました。 ・音訳ボランティア経験者向けの技能向上講座を行い、10名の参加がありました。 ・リーディングトラッカーの貸出を行いました。 <p>その他、デイジー再生機器*貸出サービス実施検討のため、周辺自治体に対し調査を行いました。また、児童向け点字体験会を行い、25名の参加がありました。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・読書バリアフリーに関するPR活動を効果的に実施する必要があります。 ・ボランティアの担い手が減少しているため、今後の持続的なサービス提供体制について検討する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとの協力体制を維持し、技能向上の支援を行います。 ・デイジー再生機だけでなく、様々な読書支援機器について情報収集を行います。

*デイジー再生機器：目が見えない方や本を読むことが難しい方のための「音の本」であるDAISY（デイジー）図書を再生できる専用の機器で、簡単な操作で聞くことができる。

<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・音訳実務者向け中級講座の実施や夏休み子ども向けイベント『点字でなまえをうってみよう!』など、啓発活動は行われており、マルチメディアDAISYの所蔵数も増えているなど、事業の目標は達成していると評価できます。しかし、障がい者向けのサービスが充実したと言えるのかは不明であると考えます。・マルチメディアDAISY上映会を若い世代やその保護者向けに行ったことは、サービスを周知する点では効果的だったと評価します。音訳ボランティア向け講座については、参加者の感想を読むと満足のいく内容であったとの記載があり、評価します。・「マルチメディアDAISY上映会」については、前年度よりやや参加者が減っていますが、募集方法、内容については大変よく振り返りと検討がなされているので、次年度へのブラッシュアップが期待できます。「夏休み子どもフェア」は全校全戸配布であり、そこに掲載したことは大きな効果が期待できます。しかし、功を奏しなかったのは、内容に課題があるのか、それ以前に効果を周知するために日常的に利用者に伝わるようなPR方法、告知する場所の見直しが必要だったのか等の、更なる検討を期待します。・マルチメディアDAISY資料が大幅に増え、周辺自治体への調査など多くの方に利用してもらえるような取り組みがなされていること評価できます。・音訳ボランティア講座は、事前に質問事項を募り、具体的な技術向上が期待できる内容で、次回を期待する声が出るなど受講者の満足度も高く、評価できます。ぜひ、今後も継続してください。・「点字でなまえをうってみよう」は、子どもが対象の講座であり、視覚障がい当事者とのふれあいもあり、あたたかな時間であったことは、インクルーシブ社会を目指すうえで必要な取り組みと評価できます。 <p>【関連提言事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・障がい者サービスの充実を図るためには、障害をお持ちの方の生の声を聞く機会があることと思います。図書館主催の勉強会等を通じて理解を深めて的確なニーズの把握を行って欲しいです。・精神、発達障害の方へのサービスへの視点が欠けているので検討が必要です。紙媒体の本だけでなく、口入れても安心な素材、破れにくい布絵本なども検討してください。（ボランティアで作製してくれる方を募集する等）・発達支援学級や発達支援センター、放課後等デイサービス、関連施設へ出向いての上映会等も検討してください。
------------------------	--

■取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実	図書館
--------------------------	-----

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらおうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回	33回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署からの希望時期が重複した場合は地域館で展開できるよう調整を行い、他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を87回実施しました（中央図書館28回、さるびあ図書館4回、鶴川図書館3回、金森図書館2回、堺図書館4回、鶴川駅前図書館44回、忠生図書館2回）。 ・特集コーナーの実施に当たり、担当課所管のHP・SNSでも周知を行いました。 ・申込書の改定を行った結果、スケジュールの調整が容易になり、今まで以上に特集の展開ができるようになりました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特集コーナーを設置できる箇所に限りがああることを勘案しながら、他部署や他機関が希望する時期と場所に極力実施できるよう、調整する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・他部署や他機関からの申し込みを最大限実現できるよう、今後も継続して取り組んでいきます。

<外部評価>

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・「本の特集コーナー」を実施しており、計画以上に目標を達成していて、大変良いと思います。色々調整する必要があると思いますが、効果的な取組だと思しますので、これからも継続して取り組んでほしいです。・情報発信施設として、市の他部署から認知されているのはなによりです。 <p>【関連事項等提言】</p> <ul style="list-style-type: none">・特集コーナーへの市民の反応が分かる資料がほしいと考えます。また、他部署にとってどんな「効果」があったのかという実績も知りたいです。特集コーナーを設けたことでの市民への貢献度こそが重要なのではないのでしょうか。・情報提供機会の充実は必要と思われませんが、ただ情報提供という一方的な流れではなく、情報の収集及びそれへのレスポンスという双方向の活性化が必要になります。・意見やアンケートなど、例えば2次元コードを用いて気軽に投稿できるなど、使用者がどのように考えているかをダイレクトに受け取ることができることでより、個別に応じた情報提供ができると考えます。・文学館など他施設との協働についても、いっそう積極的に取り組む必要があります。生涯学習の施設ではないけれども、国際版画美術館やデジタルミュージアムなど、これから生まれる様々な場所や施設を活用する機会が、図書館資料との関係の中で出てくると考えられます。と思いますが、効果的な取組だと思しますので、これからも継続して取り組んでほしいです。
----------------	--

■取組3-8 レファレンスサービスの充実	図書館
-----------------------------	-----

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	レファレンス事例の公開件数		162件	250件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
年度目標	190件	205件	220件	235件	250件

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス事例をインターネットで25件公開し、公開件数は延べ304件になりました。 ・国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を25件公開しました。 ・レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。 ・パスファインダー「まちだの自然」「法律情報」の改訂を行いました。 ・新たにレファレンスカウンターを担当できる職員の養成を行ったり、都立図書館等の研修に参加してスキルアップを行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例は問い合わせもあり、増やしていく必要があります。 ・レファレンスサービスの認知度を上げる取組が必要です。 ・「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。 ・レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。 ・「レファレンス講座」等のイベントや「レファレンス通信」等の発行を通じて、サービスの認知度が上がるような工夫を行います。 ・「パスファインダー」の改訂を行います。 ・レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

・レファレンスはICT全盛の時代においても利用者と図書館をつなぐ重要な役割があります。パスファインダーのような目的意識をもった人を助けるツールの充実だけでなく、図書館初心者が漠然とした相談や初歩的な質問をしやすい環境の充実も必要です。学校図書館とも連携して、図書指導員のレファレンス能力アップも支援する取組もあるとありがたいと考えます。

・レファレンス事例のインターネット上への公開が昨年より少し増えたことは評価します。レファレンス通信の発行が2回でしたが、もう少し発行回数が増えれば興味を持ってくれる人も増えると思います。

・パスファインダーは、昨年度の課題を受け、地域資料の充実を図り2つの改訂を行ったことは評価できます。

・レファレンスサービスは断片的な情報から欲しい情報にたどり着く等、担当職員の高度な技術が利用者と情報を結びつける図書館の大切な機能です。担当職員の養成、技術向上の研修への参加、高く評価し、更なるスキルアップを期待します。

・公開件数が目標値を上回り、研修に参加しスキルアップを図ったこと、取り組みが継続していることは評価できます。が、前年度の同じような評価しかできません。なぜなら、それが増えた程度で、取り組みはほとんど同じです。課題も全く一緒です。地道な積み重ねが必要なのは理解できますが、「課題に対し、今後の取り組みの方向性が示され、次年度にむけてどのような改善がなされたのか」を前提に評価を行うからです。現状維持が目標ならば、課題、今後の取り組みにそう表記するべきです。

・前年度の課題にもあるように、「レファレンス・パスファインダー」等のコンテンツ自体を知らない市民が多いのであれば、認知度を上げる取り組み自体を当該年度は再検討する必要があったのではないのでしょうか。

・前年度も同じ評価となります。昨今、ICTがどの家庭でも標準装備となり、レファレンスサービスの受付件数が減ることが余儀なくされている中、目標値を越えたことは評価できます。レファレンス通信にも興味深い事例が掲載されていて面白いです。しかし、年2回の発行や地域館各館や生涯学習センター等の庁内関係課、市内の高等学校への送付のみで、部数は1回あたり300部とはあまりにも少なく、効果的ではないと感じます。対策を検討してください。

【関連事項等提言】

・図書館の利用者でレファレンスサービスの存在をまだ認識していない方も多いように思われます。インターネットの情報の信憑性が問われる時代において図書館のレファレンスサービスは大きな役割を果たしていける可能性があると感じます。より多くの方が活用出来るようにサービスの告知について発信して欲しいです。

■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
--------------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数		1回	3回	
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数		26人	90人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	ボランティア向け講座の実施、内容の検証・改善				
	新たな支援方法の検討		新たな支援の実施		
年度目標 (指標①)	1回	1回	2回	2回	3回
年度目標 (指標②)	30人	30人	60人	60人	90人

<2023年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」を3回、ボランティア養成講座を1回（全3回）開催しました。図書館ボランティアを対象とした研修を1回開催し、計5回開催しました。
達成状況 (指標②)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」に29人、ボランティア養成講座に10人の受講生が全日程出席し受講終了しました。図書館ボランティアを対象とした研修に14人参加し、延べ73人の参加がありました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎編だけではなく実践編を行うなど、地域や学校で活動するボランティアのニーズをくみ取って、講座の計画を進める必要があります。 ・図書館ボランティアを養成するための講座は、これまでの「語り」、「乳幼児」といったカテゴリーに加えて、新たに「絵本」についての講座を検討する必要があります。 ・既存のボランティアの技術と意欲の向上に向けた定期的なフォローが必要になります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のすそ野が広がるよう、ニーズに応じた講座内容や支援方法を検討します。 ・新たに絵本ボランティアの稼働に向けて養成講座をはじめとした事業を組み立てます。 ・既存のボランティアの方がこれまで以上に活躍できるように、おはなし会等の取り組みを進めます。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした講座参加者数は73名と、目標としていた90名に及ばなかっただけでなく、昨年度の83名をも下回りました。ただし昨年度は2回多く実施しており、一回当たりの参加者数は増えています。また、おはなし会ボランティア養成講座（乳幼児）では定員10名に対し、20名の応募がありました。今後も集まりやすい時期や曜日がいつなのか、周知の方法が適切であったかなどを検証し、ボランティア養成や支援につながる活動を充実させていってほしいです。

・新型コロナウイルス感染症で中止を余儀なくされた読み聞かせ講座を開催し、一定数の参加者を確保出来たことは評価できます。参加者のアンケートが丁寧にまとめられていて、その内容から参加者の熱い思いと楽しんで講座を受講している様子が伝わりました。

・図書館、学校や園、ボランティアが連携することにより、各団体の活動場所が地域に広がり、子どもたちの図書の活用の促進が図られ、子どもの読書環境の充実に寄与する事業と高く評価できます。各種団体の情報交換等のネットワークの構築という効果もあり、市内で子どもたちの読書活動に関わるボランティアのブラッシュアップに機会でもあります。コロナ禍のような規制がないため、今後の更なる事業の展開が期待できます。

・開催回数は目標値を以上の達成ができていますが、参加者の数がやや伸びないことでの達成状況が前年度より低くなっています。ですが、参加者からは高評価であり、担当間での課題の確認もしっかりとなされているので、自己評価以上の努力を感じます。課題は、会場の選定や定員設定、周知方法だと思われるので、更なる検討をお願いします。計画通りに推進することも大切ですが、参加者からのニーズを把握し、現状に合った講座づくりを期待します。

【関連事項等提言】

・取組4-7にも関連すると思いますが、何と言ってもボランティア人材の確保のための継続的な施策が重要だと思います。図書館で行っているボランティア活動を知らない人も多いと思います。SNSでの発信も含め、様々な告知を行いアピールする必要があると思います。おはなし会の語り手さんのスキルアップのために、普段の活動場所以外でのおはなし会の開催の機会を図書館でバックアップするのはどうでしょうか。

■取組4-7 図書館運営の地域協働化の促進	図書館
------------------------------	-----

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	ボランティア活動分野の拡大			5分野	7分野
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5分野	6分野		7分野	
	拡大に向けた検討				
年度目標	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2023年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の6分野でボランティアの活動がありました。 ①おはなし会ボランティア（小学生・幼児向け：221回、乳幼児向け105回、英語おはなし会：12回開催） ②宅配ボランティア（宅配件数：341件） ③音訳ボランティア（音訳資料制作タイトル数：34点） ④点訳ボランティア（点訳資料制作タイトル数：14点） ⑤対面朗読ボランティア（対面朗読件数：350件） ⑥イベント企画ボランティア（イベント回数：1回） ・イベント企画ボランティアとして、YA世代の図書館利用促進を目的に、MSP（町田創造プロジェクト）と図書館のコラボイベント「飛んで火にいる夏のポドグ in 中央図書館」を8月8日（火）に行い、13名の参加がありました。また、引続き若者参画を進めるため、若者の図書館ボランティアとして「図書館プランナー」の募集をし、14名が登録しました。イベントの実現に向け検討を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館プランナー」を中心に、イベントの検討を進めていく必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もイベントの企画・運営等の分野を「図書館プランナー」を中心に開拓し、読書や図書館に興味を持つきっかけになるように検討を進めていきます。

<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・主にボランティア活動ということで、おおむねではありますが目標を達成して良いと思います。地域協働化の促進へつながる取組だと思しますので、状況に合わせて検討をしながら、これからも継続して活動して行ってほしいと思います。・「絵本の読み聞かせ講座」「おはなしボランティア養成講座」また学びなおしである「乳幼児ボランティア向け講座」などを盛んに行っていることは高く評価できます。・障がい者サービスの「音訳実務者向け中級講座」も実施報告からは充実が感じられ、町田市立図書館ならではのレベルの高さが示されています。・概ね目標達成した根拠として、件数やタイトル数が書かれていますが、実際に参加した人数や関わった人数等の具体的な数値が出ていないのが残念です。具体的に、何人ぐらいがどこで活躍したり活動したりしているのか一覧にするとか、地域に公開されるとか、そういうことが必要と思われます。・図書館プランナーという制度はなかなか面白いものがあると思いますが、これは無償の手弁当作業なのでしょうか。せめて交通費程度あるいは東京都の最低賃金程度の謝金があっても良いのではないかと思います。 <p>【関連事項等提言】</p> <ul style="list-style-type: none">・「図書館プランナー」を中心としたイベント企画をほかにも行って良いのかなと思います。・障がい者サービスの、ほかのボランティア養成あるいは強化講座はどのような長期計画で進められているのか、明示したほうが、状況が分かりやすいのではないのでしょうか。また、宅配ボランティアについても件数しか状況には書かれていませんが、もっと実態がわかる報告がほしいと思います。障がい者サービスは児童サービスと並んで図書館の根幹を支える重要な業務。もう少し状況の分かる資料があるといいのですが。
------------------------	---

■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】 図書館

事業概要	町田市内には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①読書活動推進にかかる連携施設数		20か所	25か所	
	②読書マップの作成		未実施	作成・公開（2020年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
年度目標（指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所	25か所
年度目標（指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

*まちライブラリー：『生涯学習推進計画2019-2023』47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

<2023年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動推進にかかる連携について、関係団体と協力してイベントを実施したほか、移動図書館のイベント会場や保育園・幼稚園などへの出張運行により本と出会う機会を創出することができたため、達成状況をCとしました。 、「読書活動推進にかかる連携施設数」は増減がありませんでした。 読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力し、市民が本と気軽に触れ合えるイベントを開催しました。2023年9月30日、10月1日に開催された「2023鶴川団地秋まつり」において、図書コミュニティ施設運営団体設立準備会（2025年度に鶴川図書館が民設民営の施設へ転換予定）とともにイベントを実施しました。 イベント会場や保育園・幼稚園など子どもの集まる場所7ヶ所へ、移動図書館を計56回出張運行し、資料の貸出・閲覧やおはなし会を行いました。日頃図書館を利用していない方も含め、本と出会う場所を創出しました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	読書マップについて、さらに内容の充実を図るため、今後のあり方について検討しました。
課題	「読書活動推進にかかる連携施設数」については、現在の連携施設との関係性を深めることに加えて、連携施設をさらに拡充していく必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力したイベントを、今後も継続します。 地域では様々な読書普及活動をしている団体や施設があるため、市立図書館と連携して読書普及活動を進められるよう取り組みます。

<外部評価>

外部評価者の コメント

【評価】

- ・①読書活動推進にかかる連携施設数、②読書マップの作成どちらもおおむねではありますが目標を達成しており、良いと思います。
- ・②の読書マップに関しては、当然といえばそうですが、作成がゴールではないと思いますので、そこに関してしっかりと検討している点は素直に良いと思いました。

・図書館の役割として、市民に対する本と出会う場所の創出を積極的に進める事は大変重要なことです。目標達成したというだけでなく、今後それをどのように推進するかという方向性がより明確にされると良いと思われま。

・1つの提案として、公共施設のみならず町田市内の企業や法人と多様に提携して、企業の取り扱っている領域や内容に関わる読書や資料提供の試みがあっても良いと思います。それらを読書マップに取り入れるなど、読書に資する情報を市民に提供することが大切です。

・市民への提供の仕方はもちろんホームページは必須ですが、その他にSNSや多様なネットワークの活用が大切な時代になっていると考えます。

・移動図書館の出張は、貸出者数は少ないものの、来館者は全体で年間約1600人となっており、移動図書館の意義を感じてもらうため、地道ながらもあるべき図書館の姿だと思います。たゆまず続けるべきでしょう。

・「関係団体と協力してイベントを実施」とありますが、鶴川の設立準備会との1件しか報告がなく、しかもこれを「利用施設との連携」とするのはいかがなものでしょうか。

・「読書マップ」は更新されて、大変見やすく充実しましたが、HPのバナーからは気づかれにくいと思います。「イベント・資料作成」の中にまとめず、外に出したほうが良いと考えます。

【関連事項等提言】

- ・②の読書マップを今以上に分かりやすく使いやすくしてほしいなと思います。

・市内の施設との連携はまだ不十分であると考えざるを得ません。取り掛かれる団体からアプローチして協働することで「若者の利用促進」も図れるのではないのでしょうか。連携する目的を明確化して取り組むべきでだと考えます。

■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上	図書館
----------------------	-----

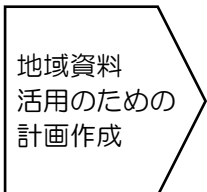

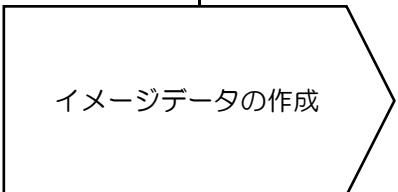

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 先進事例の研究調査・ 補助金の調査・ 民間活手法導入検討 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 導入のための仕様作成と 実施に向けた準備 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 実施 </div>
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

<2023年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度も電子書籍サービスを継続して提供しました。2023年度末の蔵書数は18,763点、2023年度の貸出点数は104,297点でした。 ・教育広報紙「まちだの教育」への特集記事の掲載や、市民センターまつりでブース出店、飲食店などで名刺サイズ広告の配布、図書館で電子書籍サービスの使い方講座の実施など、電子書籍サービスの各種PRを実施しました。 ・毎月新刊資料案内および特集を組んで電子書籍コンテンツの紹介を行い、継続して利用いただけるよう工夫しました。 ・2023年9月から市内の公立小・中学校の児童・生徒全員に対し、電子書籍サービスIDを付与しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスのひとつとして電子書籍サービスの認知度を上げる必要があります。 ・電子書籍コンテンツが紙の図書と比較して高額かつ点数が少ないため、継続して利用したいと思っていただくよう工夫する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き様々な場面でPRを行うことで、電子書籍サービスを市民に広く周知します。 ・常に魅力的な蔵書構成にするような選書を行い、新刊案内や特集を定期的に公開することで、電子書籍サービスの利用を促進します。

<外部評価>

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・東京都デジタルデバイド解消事業2年間の補助金を活用した蔵書数の拡大により、貸出点数増加への効果があったことを評価します。・市内の多様な場でのPR活動の工夫と実施は、市民のどの年齢層へも電子書籍を周知する機会として有用であったことを評価します。・取組2-4の事業と関連して、2023年9月から市内公立小・中学校のすべての児童・生徒へ電子書籍サービスIDを付与したことは、子どもたちの図書館利用への間口が広がり、読書活動推進へと繋がる可能性があることを高く評価します。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・デジタル技術の急速な発展・普及は市民生活とは切り離せないものとなった現在、電子書籍は様々な理由から図書館を訪れることが困難な市民にとっても「本と出会い」「本を愉しむ」機会を得られる貴重なコンテンツであると考えます。電子書籍の利便性を広く周知し活用を促すことは「市民の声」を収集できることにも繋がると考え、今後も範囲を広げた積極的なPR活動の継続を期待します。・紙の書籍よりコスト高の電子書籍コンテンツの購入については、補助金終了後の購入計画を市の図書費の増額検討・要望と合わせ具体化を進めていく必要があると考えます。・町田市の子どもの不読率の結果も考慮しながら、電子書籍サービスID付与のみではなく電子書籍の活用方法や楽しみ方の出張講座等のさらなる発展的な取組みの実施を期待します。
----------------	---

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

*デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。



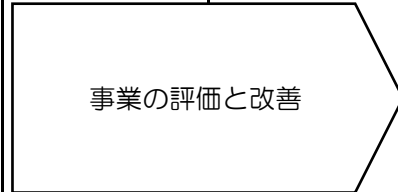

<2023年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> • 電子書籍サービスサイトで公開させるための手法を調査しました。 • 電子書籍サービスサイトにおいて、地域資料を1点公開しました。 • 本格的な導入に向け国の補助金「デジタル田園都市国家構想交付金」に応募し、内示を受けました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 2024年度中の公開に向け、各種準備を進める必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> • 2024年度中に電子書籍サービスサイトで公開できるよう各種準備を進めてまいります。

<外部評価>

外部評価者のコメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・電子書籍サービスのためのシステムで提供されることにより、電子書籍と合わせて検索ができることは、評価できます。一方、地域資料のデジタル化は、町田市に関する情報を市外へ発信することにもつながるものであるため、市外からも容易に閲覧できることが期待されます。・段階的な導入とはいえ、コンテンツがきわめて少ないことは、改善していくべき点です。本格的な導入によって、コンテンツの充実が期待されます。・本格的な導入のための補助金を確保したことは、事業の実現、充実において重要であり、高く評価できます。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・次のような工夫がなされることで、情報にアクセスしやすく、また、情報が活用されやすい仕組みが作られることを期待します。<ul style="list-style-type: none">・他部局が公開するデジタル化資料も検索できるようにする。・学校での探究学習や各施設における講座等における活用を促す。・OPACから電子書籍システムに収載した地域資料へアクセスできるようにする。・市外からの閲覧にも対応する。・システムの維持とコンテンツの拡充のため、継続的な予算の確保を期待します。
------------	---

■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施	図書館
---------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2023年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者制度の効果を検証するために、図書館全館で利用者アンケートを実施しました。 ・ これまでのアンケート調査で市民ニーズが高かった次のサービスを実施しました。 ①9月から市内小・中学校の児童・生徒に電子書籍サービスの利用IDを一斉付与しました。学校で使いやすい同時使用が可能なコンテンツなどを揃え、新たな読書機会の提供を行いました。 ②5月から久美堂本町田店での予約資料受渡しサービスを開始しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、指定管理者による運営状況の評価が必要です。 ・ 利用者アンケート結果から市民ニーズを検証し、図書館利用に結び付ける必要があります。 ・ 図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民のニーズも把握する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者による運営の効果検証に基づき、今後の運営体制を検討します。 ・ 検証結果に基づき、図書館利用の拡大につながる事業展開を検討します。 ・ 紙ベースのアンケートだけでなく、QRコードからアクセスできるアンケートなど適切な方法を検討します。

<外部評価>

外部評価者の
コメント

【評価】

- 利用者に対し、調査が順調に実施され、とりまとめられたこと、また、工程表よりも多くの調査が実施されたこと、そして、結果がウェブ上で報告されていることを高く評価します。これらの結果を活かし、他の取組項目の改善または充実がなされることを期待します。
- 調査の実施結果が、さらなるサービスの充実に結び付いている点も、高く評価します。

【関連事項提言等】

- 公開されている調査結果は、集計が中心となっていますが、データの有効活用、課題の発見と改善、調査協力者への説明責任の観点から、さらなる調査結果の分析と公表も検討してよいと考えます。また、どのような課題やニーズが読み取れるのか、まとめを示すことも有効であるといえます。
- 「課題」にあるとおり、図書館を利用していない人々（潜在利用者）への調査は、積極的に検討すべきであるといえます。

若者の図書館利用の促進事業について（グループディスカッション）

若者（中学・高校生世代）をひきつけるようなイベント・取組や若者の興味を引くものなどについて、グループ内で検討していただきます。検討がしやすいように、4つの枠組みを設定しましたが、すべてを検討する必要はありません。各自で選んでいただいても構いません。できるだけ具体的なご意見をお願いします。また、他の自治体やニュースなどを含め良い事例があれば、あわせてグループ内でご紹介してください。

最後にグループ内で意見をまとめ、代表的な意見などを発表していただきます。

■ イベント

若者を引き付けるもの、参加したくなるもの。

例) ・まちクエ ・一日図書館員 など

■ 取組み（ソフト面）

常設されているものや、日頃行われるものなどのソフト面を想定。

例) ・わいわいキャレル ・YA通信 ・書き込みノート「わいわいのおと」 など

■ 設え（ハード面）

施設的なものなどのハード面を想定。

例) ・TEEN LIBRARY（YAコーナー） など

■ 情報発信

どうしたら若者に情報を届けられるのか、また、若者にささるようになるのか。

例) ・図書館ホームページ ・X（旧Twitter） ・チラシ、ポスター など

【参考】 前回会議まとめ

(1) 町田市立図書館で実施している若者向けイベント等について

- ・一日図書館員・まちクエ2024・Yシネマ（10代向け映画会）
- ・中央図書館「TEEN LIBRARY（YAコーナー）」
- ・中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」
- ・イベントボランティア「図書館プランナー」 など

(2) 8月1日協議会でのご意見

- ・アイデアの出し方として、多摩市の図書館に行った際に、若者の意見などを自由に貼れる掲示板みたいなものがあった。

- スマホ世代への情報提供は、インスタが主流だと思われる。T w i t t e r が既存にあるならば、その活用や新しいツールを検討すべき。
- 映画を上映するとしたら、配信サービスにあるような映画ではなく、DVDでしか見られないものや、若者がどのようなものを見ているのかなどを調べて上映する映画を決めると良いのではないか。
- 若者の利用促進やイベントということだけではなく、継続や日常化など既存の枠組みから踏み出して、若者が考えられる自由なあり方があっても良いのでは。図書館としてもチャットGPTなどAI技術が進んでいる中、旧来の枠組みではなく従来とは違う感じで考えていくべきではないか。

図書館からの報告事項

1. 町田市議会の動向

(1) 第 3 回定例会 (8/27～)

①一般質問 (9/5)

・田中議員「市民に身近な公立図書館を求めて」

(1) さるびあ図書館と中央図書館の「集約」について、これまでの取り組みは。

(2) 7 月に実施された意見交換会でどのような意見が出されたか。

(3) 中央図書館と地域図書館の役割について認識を問う。

(4) 採択された「町田市立さるびあ図書館の存続を求める請願」にもとづいた対応を求めらるかどうか。

②第 79 号議案「町田市立図書館条例の一部を改正する条例」への質疑(9/6)

☞図書コミュニティ施設転換に伴い 4/1 付で鶴川図書館の記載を削除するもの

・東議員

(1) 図書コミュニティ施設とはどのようなものか

(2) 図書館と図書コミュニティ施設の違いは何か

(3) 図書コミュニティ施設ではワファルス機能をどのように提供するのか

(4) 本議案の上程を当初の予定より 1 年早めた理由は何か

(5) 本議案の上程を当初の予定より 1 年早めたことについての市民への周知状況は

(6) 鶴川図書館に勤務している職員への今後の対応は

・田中議員

(1) 条例改正の目的、内容について問う。

③文教社会常任委員会 (9/11)

・第 79 号議案「町田市立図書館条例の一部を改正する条例」

・行政報告「鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について」

・認定第 1 号「令和 5 年度町田市一般会計歳入歳出決算認定について(生涯学習部分)」

・行政報告「図書館情報システムの更改に伴う町田市立図書館の休館等について」

2. 町田市教育委員会の動向

(1) 第 5 回定例会 (8/2)

・議案第 15 号「町田市立図書館条例(案)について」

(2) 第 6 回定例会 (9/18)

・報告「鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について」

・報告「図書館情報システムの更改に伴う町田市立図書館の休館等について」

・報告「第五次町田市子ども読書活動推進計画(案)の市民意見募集について」

☞期間：9/18～10/17、資料配布：図書館など市内 29 カ所

3. 各種計画(町田市 5 カ年計画 22-26、公共施設再編計画、教育プラン 24-28 など)に基づく取組

(1) 鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について【資料 4】

4. その他

(1) 図書館情報システムの更改に伴う町田市立図書館の休館等について【資料 5】

2024年9月11日・12日
行政報告資料
生涯学習部図書館

鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について

鶴川図書館においては、2025年度に図書コミュニティ施設に転換することとして取組を進めております。この度は、図書コミュニティ施設への転換に向けたスケジュールや施設概要などについて報告します。

1 図書コミュニティ施設への転換に向けたスケジュールについて

	2025年			
	2月	3月	4月	5月
鶴川図書館	~2/28(金) 通常通り開館	3/1(土)~ システム更改によるサービス休止	3/31(月) 閉館	
つるかわ図書コミュニティ施設			3/25(火)~ 予約本受渡サービスの実施	運営開始
		開館準備		

2 図書コミュニティ施設概要

施設名称	つるかわ図書コミュニティ施設 ＜愛称＞（以下5案から選定中。10月イベントで発表） つるBASE, つるほん, つるコミュ, つるだん, つるぼん
所在地	町田市鶴川6-7-2（1-101） （鶴川図書館の所在地）
開館時間及び休館日	＜開館時間＞ 町田市立鶴川図書館と同程度を想定 ＜休館日＞ 週1～2日程度、年末年始
主な事業・提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・本や雑誌の貸出と閲覧（専用の利用券の作成を予定） ・市立図書館の予約本受渡サービス ・絵本の読み聞かせや工作などの館内イベント ・コミュニティスペース（自習・パソコン可能） ・フリーWi-Fi ・地域団体等と連携した各種事業 （交流イベント、学習支援、地域の魅力の発信など）
蔵書規模	約15,000冊

3 図書コミュニティ施設への運営支援

運営団体である「(一社) つるかわ図書コミュニティ施設運営協議会」と、2025年3月に協定を締結し、以下の支援を行います。

- ・ 図書コミュニティ施設運営費を補助
- ・ 建物は市がURから賃借
- ・ 鶴川図書館で使用している備品や蔵書、雑誌のうち、運営に必要なものを無償譲渡

4 地域との連携イベントの実施

図書コミュニティ施設のPRや地域との連携と協働を深めるため、地域の方々と連携したイベントを実施します。

イベント名	ともに知ろう！ 鶴川図書館の歴史、これからの防災
開催日時	2024年10月5日（土）10:00～15:00
開催場所	鶴川図書館コミュニティスペース
開催内容	① つるかわ図書コミュニティ施設の愛称発表 ② さるびあ亭かーこさんによる紙芝居口演 ③ 楽しくおいしい防災の備えと食事（防災に関するお話と展示） ④ 防災クイズ（災害時に必要な非常食の分量などを考える体験型のクイズなど）

2024年9月11日・12日
行政報告資料
生涯学習部図書館

図書館情報システムの更改に伴う町田市立図書館の休館等について

町田市立図書館では、図書館情報システムの更改に伴い、システム機器の入替えやホームページのリニューアルを実施するため、移動図書館を含む図書館全館を臨時休館し、図書館ホームページ、電子書籍サービスを休止します。

また、堺市民センターの改修工事に伴う堺図書館の臨時休館や、鶴川図書館の閉館について併せて報告します。

1 休館等スケジュール（予定）

	2025年					
	2月	3月	4月	5月	6月	7月
・町田市立図書館 (堺図書館及び 鶴川図書館を除く) ・移動図書館※1 ・予約本受渡場所※2	通常通り開館 ~2/28(金)	3/1(土)~3/24(月) 休館 (返却ポスト利用可能) 2/28(金)20時 ~3/25(火)9時 図書館ホームページ ・電子書籍サービスの 休止 3/11(火) ~3/24(月) 読書室利用可能 ・中央図書館 ・さるびあ図書館	3/25(火)~	新しい図書館システムでの開館		
町田市民文学館※3	通常通り開館					
		3/1(土)~3/24(月) 図書館サービスの休止	3/25(火)~	新しい図書館システムによる図書館サービスの再開		
堺図書館※1	開館	堺市民センター改修工事に伴う休館 2/10(月)~6/30(月)				開館
			3/25(火)~	予約本受渡サービスの実施		
鶴川図書館	通常通り開館 ~2/28(金)	3/1(土)~	3/31(月)	閉館		
		システム更改によるサービス休止				
つるかわ図書コミュニティ施設			3/25(火)~	5月~	運営開始	
		開館準備				

※1 堺図書館発着の移動図書館の休館については、堺市民センター改修工事の進捗に応じて改めてご案内します。

※2 予約本受渡場所は、小山市民センター・まちライブラリー@南町田グランベリーパーク・子どもセンターばお分館（WAAA O わーお）・成瀬コミュニティセンター・玉川学園駅前連絡所（玉川学園コミュニティセンター）・久美堂本町田店の6か所です。

※3 3/1(土)~3/24(月)も、展示室・会議室・保育室はご利用いただけます。

2 周知方法

2024年9月15日から休館についての情報提供を開始します。

- ・2024年9月15日 ホームページ・SNS・館内掲示で周知
- ・2025年1月1日 広報まちだ掲載（休館について）
- ・2025年4月1日 広報まちだ掲載（開館・新たな機能のご案内）